



昨日、日曜、午後二時、二十分、新報社、第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

未曾有の盛儀 忠烈護空 除幕式

江名海岸時ならぬ人の波

涙も新たな遺族七名の玉串奉典

既報の如く江名海岸に建立された増田、島田兩少佐の忠烈護空の表忠碑除幕式は昨日午後二時より陸海軍諸將並に朝野の名士地元有志等参列の上江名の寒村開始以来の盛大さを以て舉行された此の日は秋深み行く江名海岸上の天日も密雲低く垂れてほの暗く浪の騒ぎも湖水にも似ていと靜かに總てが兩勇士の英雄に涙する如き風情であつた、右表忠碑は海軍のマークの碑臺に浪を表現せる勢を佩き頭にプロペラを刻み中央に加藤寛治海軍大將の忠烈護空の四文字を刻んだ堂々たるもので、渾に群衆する高近き老若男女並びに視察を表すべく落着く投錨した高艦師の漁船數十隻の前に毅然と立つて居た、式は正午後二時より國家合唱に開始され國田男爵の式辭各來賓の式辭、兩勇士の遺族七名の玉串奉典、非常時日本の大立物加藤海軍大將發聲の高麗三唱に三時半式を閉じた此の日の重なる來賓は左の如し

江名の剣道大會

江名忠烈護空除幕式記念の剣道大會は同海岸に昨三十日午後二時より開始左記諸氏優勝した

- 一等 遠藤正彌（平野）
- 二等 草野忠吾（平野）
- 三等 大谷次男（平野）
- 四等 山田管雄（二段好間）
- 五等 岡谷兼廣（二段内郷）

中將 國防協會理事長 田中 節理學博士 貴族院議員 男 福原原俊 福島縣知事

石城の乾燥刻若布 滿州へ進出する

陸軍から一千五百罐の注文に ホク／＼する大鶴屋商店

本縣に對して陸軍糧秣廠から滿州派遣部隊に送るべき副業的農産物十七種の購入を申し込まれたことは既報の如く縣では各郡へ向つて夫々該當生産品の出品を命じ同地向して併かも優良なものを探してきてゐるが平町からは字材木町大鶴屋商店製造に係る乾燥刻若布を前記十七種の中に撰

堂々入山軍桂冠を把持し 磐陽野球大會終る

磐炭軍のツイ撃空し

卅日、野球日和の磐中校で

三十日の磐中校庭は秋特有の空の青さは無かつたが全く無風、磐陽野球大會の準決勝決戦、を迎へるには絶好の野球日和であつた午前八時入山對高月の戦に開始、午後四時入山軍の凱歌に本シーズン硬式

入山	327003015
高月	00010001
球佐藤	000233008
湯本	0200100025
球石坂	000233008
湯本	0200100025

常談

隔世農業と云ふのは異常な不安から榮國混作などを考へられるものと同じく桑園のひと吐づきを閉隔に減じて其の空地に野菜その他適作を爲し農の生産費を軽減しやうとするもの

簡保記念の懇談會

平野便局の催し

平野便局では簡保保險事業開始十八年目を當る當年當月記念日である今日午後五時から同町四丁目マルトモ樓上にて從事員の懇談會を催し地方有志の來會を求めて簡保に關する懇談をなす筈

赤井嶽藥師に水道、待人室新設

平町片寄友次、渡邊又兵衛、倉田清、石澤茂、赤井村、吉田内内の諸氏發起の下に工費三百五十圓を以て赤井嶽藥師參道途次休憩所（待人室）及び管管九十五圓の水道を今回布設された向之に寄附せる人々の記念碑建設中との此の程竣功したので近日貴主旭純榮師を迎ひて盛大に記念式を行ふ筈である

四倉繭相場

平均二十六圓二十錢

昨三十日四倉繭市場の繭出荷量は八百七十二貫三百匁で相場は左記の通りである

最高二十七圓九十錢 最低二十四圓五十錢 平均二十六圓二十錢 以上

自轉車泥棒御用

伊達郡森江野村大字塚目生れにて件取十件、約六七十圓見

川魚の習性と其漁法

石田磐中教諭

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

一文なしで豪遊するサラリマン

實は前科四犯の強か者

一杯食つた料亭旅館共ア然

昨三十日平野藤田屋旅館に東京市京橋區銀座五丁目某銀行員阿部金吾（三）と稱して投宿せる男は同夜南町某料理店に登壇し約三十圓の飲食をなし金は旅館にて仕拂ひするからと巧みに料亭を立ち去る館に來り明日電報にて至急金は取寄せから右代金を一時立換いて置いてくれぬかと何處までも言葉巧みに立廻つたが舉動に不審の點あるのが取合は平野署に届出た處右銀行員阿部金吾とは眞赤な偽りで窃盗前科四犯もあり本年七月八日千葉刑務所を出獄したばかりの本籍石城郡飯野村大字下荒川生れの無職阿部連次郎（四）なること判明した尙右の者は七月出獄以來今迄相當身装を調ひ然も無職にて暮して來たる所より判断するとかなりの餘罪ある見込みにて目下嚴重取調中

平町消防組の活動見物

平町消防組では来る三日世界館で上映の内務省、警視廳後援に依る島耕二新興入社第一回作品「消防手」を九十圓にて買切り參觀する筈

刺身鮑丁振廻す

口論で負けて

本籍宮城縣桃生郡高本町大字八本字川生れ當時石城郡平野村大字中平窪居住熱海警務（三）は去る廿九日午後三時頃自分と同じく小川江筋の土木工事に従事して居る鈴木正男（二）と僅かの事より口論となり一旦歸宅後刺身鮑丁を懐中し再び仕事場におもむき歸り、上せ網

泥窃盗十件自白

去る九月廿八日平野署員が窃盗被疑者捜査中石城郡内郷村大字宮字鬼ヶ澤地内に於て舉動不審の男を引致し引續き取調中の處先月九日より内郷村専門にて件取十件、約六七十圓見

ツリ銭新手法

末恐ろしき小僧

本縣若松市通寺町生れ當時平野五丁目某酒店雇人齊藤吉松（二）は昨日日赤玉ボドワインの注文を取つて來たが拾圓札だから釣銭をお客から持つて來いと云われたと主人を欺き八圓七十錢を持つた儘行方不明となつた主人の顯出により平野署で手配中同日深夜驛前を徘徊中取押へたが右吉松は本年年中右様手段を持つて既に七十餘圓を詐欺せる末恐ろしき小僧である

世界館

（映畫）（三）（四）

- ◎「天明旗本傘」完結篇
- ◎「松竹蒲田オール」トキキ
- ◎「頼を寄すれば」大日方傳
- ◎「高崎秀子」及川道子主演
- ◎「新興特作」消防手」島耕二
- ◎「入社第一回主演」森野子
- ◎「中長かほる」月田一郎助演

燈下漫錄

（俳諧）

（釋）發叢集を編輯するに當り蕉門の誰彼の句を入集せしむべく撰み抜いて居る時に其角が遙々江戸から原稿として此句を寄せて來て其添へ手紙に下五を冬の月とすべきか霜の月とすべきか思ひ惑つて居る皆さんで然るべく取捨して下さいと云つて來た編輯者の合議で冬の月とすることに極めたが先師の日ははるかに此句其角の昔が冬、霜と置わづらう程の句でもないがなあと仰せられて衆議と同じく冬の月と定めて撰みの集へ入れられた、此句始めは上五の此木戸と云ふ文字がつまつて居た爲に柴戸と讀めたのである

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

網を上げて魚類を捕獲してよく或は「突つき」に用ひたり又は川干の際魚類の逃走を防いだりする爲めに用ひたり、其の外石倉網に代用したるために網糸を編んで使用し、編み目編み糸の撰定は投網の要領と同じであります

